春興

上白井すし

梅か香や月まちの空おほろ中　山夕
若草の間よしも動くは乱れ石　雉雄
ぬる田や田青の世あこそ　鳥孝
よふ近き孫宜の古戸や女のむし　亀遊
鶯鳴や深草し栗[illegible]も　環廣
春はなや梅のまい花の青陰　也生
汲しる[illegible]もまつりし池の梅　菖画
来ても訪ねて拙ら白森のゆ女　梅郎
雲しなく[illegible]にもたしの花　其鶴
盆の梅鶯多夕雨の茶に匂ふ　和柳
清[illegible]日はふうき山吹もち　香文
日は春の白眼ふりし碁一盤　餞暁
出て蔵り抜ぶりし寺苗柳なる　桂枝
雪解や日御のあく数山の数　兎裘
ひとる日きや歌ひかはなきて小蝶　東文
若く咲しか別の家き傾る乱　出王
まし一ツ二ツ三ツ四ツ六ツの鶉きぬ　一秀
白き女やけて深なきつる城　南園
出よ鳥しまれぬの鮭放そかくぞる　仙賀
刹刀は[illegible]味の世つき苗は稲　知交
若く加へるくれゆのまの当　[illegible]秋
この句こゝろ[illegible]や春の地かほ　梅旭

蒼々庵
萩草はよりとしよ小畫　畫交

うれし